



～いのちを守れ くらしを守れ フクシマと共に～

# さようなら原発全国集会

3月21日（水・祝）、代々木公園で「さようなら原発全国集会」が渋谷区代々木公園で開催されました。福島第1原発事故から8年目を迎えたこの日は雪の舞う寒さの中、1万2千人が参加。

主催者挨拶では落合恵子氏が「独裁としか呼べない安倍政治にこれ以上つきあえない。福島ของ苦しみと喪失から目をそらし、沖縄を苦しめ続け、人の命には鈍感で、どこを信頼しろと言うのか。安倍内閣を退陣に追い込もう」と発言。

そのあと、フクシマから3名の発言があり「子どもたちが安心して暮らすことを奪ってしまった大人としての責任として、裁判を闘っている」（「子ども脱被ばく裁判の会」共同代表の片岡輝美さん）、「白血病、鬱病に苦しんでいる。このようなことが繰り返されないよう東電の責任を明らかにしたい」（被爆労働者あらかぶさん）、「政府や行政の対応は理不尽の連続だ。この子たちを置き去りしたまま、どんな発展をめざしているのか」（郡山市から静岡県内に避難している長谷川克己さん）など、それぞれの立場から現状を訴えました。

次に、村上達也さん（元東海村村長）が茨城・東海第二原発再稼働問題について報告。「福島原発事故の3か月後脱原発を表明した。今、東海第二原発を再稼働させようとしているが何としても阻止しなければいけない。」と語気を強めました。

韓国から来日したイ・キョンジャさん（「核再処理実験阻止30キロ連帯」実行委員長）は、「韓国にも原発が24基あり、核のゴミがたまり続けている。原発は無差別で大量の殺人になるでしょう。」と語りました。

続いて、「フクシマ連帯キャラバン」から3

2018年3月21日 ※春分の日  
代々木公園B地区(〒151-8531 東京都渋谷区代々木2丁目1番1号 代々木公園B地区)

11:30 出店ブース開始  
12:30 開会・野外ステージ  
13:00 閉会

主催者挨拶：落合恵子さん(作家・政治評論家)  
フクシマから：①片岡輝美さん(子ども脱被ばく裁判の会共同代表) ②あらかぶさん(被爆労働者) ③長谷川克己さん(静岡県内避難者)

東海第二原発再稼働について：村上達也さん(元東海村村長)  
韓国から：イ・キョンジャさん(核再処理実験阻止30キロ連帯実行委員長)  
フクシマ連帯キャラバンから

原発禁止案について  
原発ゼロを目指す：千葉一雄議員 河合弘之さん(参議院議員)  
原発ゼロを目指す：野田聖子議員 田村智子議員 山本太郎議員  
原発ゼロを目指す：市民からの行動要請委員会代表：福山真助さん(市民代表)

15:10 予定出発 福島3区、東京・茨城・宮城の3都県道管轄のロープウェー、日登橋・イトクワ・フェス  
※ステージ上のトークには手話通訳が取りまします。

※フクシマから 韓国から さようなら原発報告会  
日時 3月20日(金)17:00-19:00  
会場 参議院会館多目的ホール  
内容 自主選出者からの報告、韓国からの報告、フクシマ連帯キャラバン報告など

主催：「さようなら原発」一千万署名 市民の会  
共催：市民の会 東京支部 東京支部 東京支部 東京支部  
協力：賛助せぬい9条連帯実行委員会  
事務局：さようなら原発1000万人アクション事務局  
事務局：〒151-8531 東京都渋谷区代々木2丁目1番1号 代々木公園B地区  
電話：03-6354-1100 / FAX：03-6354-1101  
ホームページ：<http://www.321nuclear.org/> (日本語/英語/韓国語)



月 14 日から新潟、福島、茨城、東京を回って脱原発を訴えてきた、各地での取り組みが報告されました。また、「原発ゼロ自然エネルギー推進連盟」事務局長の河合弘之さん（弁護士）は、「日本はこの 7 年、実質原発ゼロで停電は 1 回も起きていない。原発即時ゼロは可能です。脱 CO2 の主体は自然エネルギーです。原発を絶対動かさないこと、自然エネルギーを 1 早く日本に広げることの両方の闘いをしていきます」と発言。

逢坂誠二さん（立憲民主党エネルギー調査会会長）は「野党 4 党で『原発ゼロ法案』をまとめ、国会に提出した。全国 20 カ所でタウンミーティングをした。原発ゼロを多くの国民と協力して実現しよう」と呼び掛けました。

福山真劫さん（「戦争させない：9 条壊すな！総がかり行動実行委員会」共同代表）は「原発をはじめ、森友学園疑惑、沖縄基地建設、朝鮮半島の緊張など許せないことだらけだ。政治を私物化する安倍政権を辞任に追い込もう」と声を高めました。

閉会あいさつを、呼びかけ人の鎌田慧さん（ルポライター）が行い、「原発は人間に敵対するというのは福島の教訓です。原発事故から 8 年目の出発です。この集会から全国に原発廃炉宣言をしましょう」と集会を締めくくりました。

## 交流のひろば

### ■ 河東町勤労協（福島県）

#### ◆第 35 回総会を開催しました ～今年度も楽しく交流を！～

去る 3 月 10 日、会員約 20 名の参加の下総会を開催しました。

総会では難しい議論はありませんでしたが、毎年恒例となっている事業を取り組む中で会員の拡大を目指すこと。安倍政権が進める戦争ができる国づくりを許さないため、当面は、会員の皆様にも協力をいただいている「安倍改憲 NO！憲法を生かす全国統一署名」の取り組みについて確認しました。

会長 武田芳仁（塩庭） 副会長 譲矢 隆（横堀） 黒田 篤（塩庭）

事務局長 鈴木芳朗（島） 事務局次長 竹田義信（大和田）

事務局員 古川義市（駒板） 大塚成一（郡山）

会計監査 兼子多積（西屋敷） 笠井静雄（南高野）

顧問 安藤邦雄（六丁） 穴沢勇治（六丁） 2 年間、宜しくお願い致します。

#### ◆市政要望の回答がありました

1 月 23 日に提出した市政要望に対し、3 月 6 日付で回答がありました。回答内容については、今後、役員会や勤労協若松市連と協議し、必要であれば、当局との具体的な話し合いを持つなど、検討していく考えです。

#### ■河東に係る事項

① 減反政策の廃止に伴い、強清水地区などは互助制度（料金）がなくなり、不安定な農業経営を強いられることへの対応について

米の需給バランスを守るには、これまでの転作を継続することが課題と認識。そのため、今後も産地交付金の有効活用、市独自の支援策を継続していく。

強清水地区に対する具体策については示されていませんが、市が強清水地区に入り、地区の皆さんと話し合いを始めています。地域の要望が受け入れられるよう見守りたいと考えます。

## ② 河東第三幼稚園の3歳からの入園要望について

現状の施設では保育室の増設が必要であり敷地からも困難。

今後、広田保育所も含め、市の公立保育所・幼稚園のあり方を検討する考え。その中で3歳児受け入れも検討する。

これは、現在の広田保育所を「こども園」にし、民営化も視野に入れているものと考えられます。

この内容では、同幼稚園の保護者会で2月市議会に請願書を出しましたが否決されています。

今後、市の動向を見極め、場合によっては公立幼稚園・保育所を守る運動を地域の中から作っていかねばなりません。

## ③ 路線バスの熊倉線廃止という話を耳にするが動きは？

廃止の情報はないが経営収支が厳しいのは事実。現在は被災地特例で運行されているが、32年9月まで。その後は未定であることから喜多方市とも協議しながら進めていきたい。

(河東町勤労協だより 2018.04より抜粋)

## ■ 熊本地区（市）勤労協（熊本県）

熊本地震から2年が経ちました。その節には全国の勤労協仲間の皆さんから心のこもった多大な募金をいただきまして、まことにありがとうございました。

復興のつち音の中にも、いまだに借り上げ住宅に住む会員もいる状況ですが、「出来るところから活動を」との気持ちで熊本地区（市）勤労協も頑張っています。

## ◆マラソンボランティア（2・18）

熊本市の主催で始まった「熊本城フルマラソン大会」は7年目を迎えました。1万人を超えるランナーをサポートするボランティアも3千人が必要とされます。地区勤労協は初年度からボランティアとして応募し毎回、15人程度を出してきました。

その任務は幅広くランナーの手荷物の受け渡しや、途中タイムアウトのランナーのバスへの誘導も経験しました。今年は仮設トイレへの

誘導（各所でのプラカード持ち）と整理でした。熊本市からも感謝の言葉が寄せられ、大会後の打ち上げでは「来年もまた、」との気合いを入れました。



## ◆3000万人署名

憲法9条を守らせるため、の全国署名には熊本勤労協としても積極的に参加しています。各地区での取り組みは当然のこととして、共闘する団体との街頭署名活動にも毎月（毎回）参加しています。街頭に立って気づくことは若い人の反応が結構良く、高校生や乳母車を押す若いお母さんも応じてくれることは少なくありません。

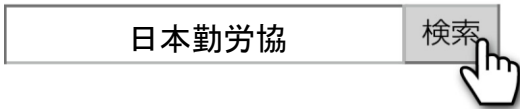
むしろ年配の方の反応が鈍いことは、豊富な社会経験の中にもあきらめてしまっているのかな？とさえ思います。

数も少なく力量もない「勤労協」ですが、若い人の応援に勇気もらい、決してあきらめることなく活動を続けるつもりです。  
(熊本市勤労協 矢野俊雄)

### ■□■ 事務局より

日本勤労協のホームページがリニューアルしました！どうぞご覧ください

「日本勤労協」で検索ください



ホームページURL⇒  
<http://kinrokyo.net/index.html>



一人より二人、二人より三人と広がったたすけあいの輪。確かな今日と、健やかな未来を守りつけて、全労済は創立60周年を迎えました。常に時代にあった保障のカたちを提供していくことで、これからも、支えあう安心をさらに大きく広がっていきます。

- 全労済の 住みいる共済
- 〇せいゆい共済
- 交通災害共済
- 〇火災共済
- マイカー共済
- 新セット移行共済
- 〇自然災害共済
- 自賠責共済
- 〇総合医療共済
- 〇団体生命共済

全労済は、愛利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。